

Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字北海道看護大学

大学院助産学専攻を新設

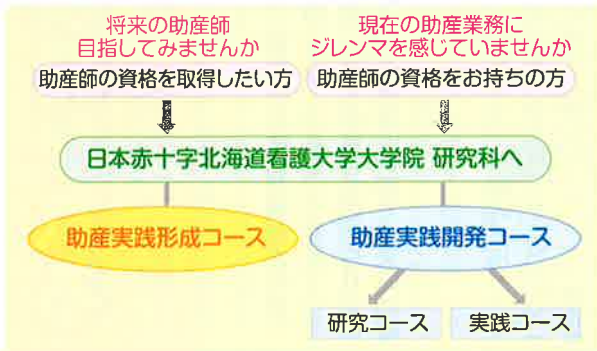
平成二十一年度四月より、大学院での助産師養成がはじまります。
— 知と実践力を兼ね備えた高度な専門職の育成 —

助産師教育が、本大学院ではじまります。研究型大学院での助産師養成は、北海道で、はじめての開設となります。これまで学部で助産師養成がなされてきましたが、三年後にはすべて大学院での教育になります。

では、学部と大学院とは、どこが違うのでしょうか。まず、第一に教育内容が専門性の高い内容になっています。妊産褥期・新生児期のケアをコアとして独自のカリキュラムにより充実され、さらにリプログラム・ヘルス／ライ

スの視点から女性の心身の健康にアプローチし、性教育、地域・国際活動など幅広い内容が、専門の教員により教授されます。第二は、実習が、病院だけではなく開業助産所、地域や海外などでも行われます。実習での豊かな経験は、グローバルな視点から助産師の自覚と役割を考えさせてくれるでしょう。

大学院の教育の目標は、女性・子ども、家族を尊重し、エビデンスに基づいて考えケアを提供でき、自立して行動ができる助産師を育てることです。そのためには、十



助産学専攻

募集人員	10名(女性)	
試験種別	推薦入学試験	一般入学試験
願書受付期間	平成20年11月17日(月) ～ 平成20年11月28日(金)	【1期】平成20年11月17日(月)～ 平成20年11月28日(金) 【2期】平成21年2月9日(月)～ 平成21年2月20日(金)
選抜方法	出願書類、学力試験(小論文)、面接を総合して選抜	出願書類、学力試験(小論文、専門科目、外国語(英語))、面接を総合して選抜
試験会場	日本赤十字北海道看護大学	
試験日程	平成20年12月7日(日)	【1期】平成20年12月7日(日) 【2期】平成21年3月1日(日)

※お問い合わせ: 日本赤十字北海道看護大学 学生課 入試係



助産学専攻説明会 (会場: 北見市)

分な時間が必要です。大学院は、二年間ですが、この二年間という時間は、これまでにない専門的で楽しく豊かな学習ができるでしょう。女性や赤ちゃんへのケアを極めたい方、助産師になりたい方など意欲のある方を大学院は求めています。今、社会は助産師を必要としています。開業権が唯一認められているのが助産師です。将来、自立して仕事を行うことができる可能性を持った職業です。大学院では、助産師になるためのコースの他に、助産師として仕事を持つている人が、さらに専門性を高め、助産師外来、院内助産師開業助産院の開設、国際活動などで活躍することができますためのコースがあります。卒業生の方のチャレンジもお待ちしております。(母性看護学・助産学領域教授 柳原真知子)

開発センター 認定看護師教育課程開設

日本赤十字北海道看護大学では、建学の精神である人道を基本原則とする赤十字の教育理念に基づき、がん化学療法認定看護師教育課程を開講します。道東では、唯一の開設であります。

認定制度の教育では、受講生の経験と知識との統合を図り、技術の熟達により人間の生命を尊重し、豊かな感性をもって看護ケアを自律的に実践できるがん化学療法認定看護師の育成を目指します。

認定看護師教育課程

募集人員	10名
教育期間	平成21年6月1日～平成21年11月30日(6ヶ月)
願書受付期間	前期日程: 平成20年10月24日(金)～平成20年11月21日(金) 後期日程: 平成21年1月16日(金)～平成21年2月13日(金)
選抜方法	学力検定、小論文、面接の総合点により選抜
試験会場	日本赤十字北海道看護大学
試験日程	前期日程: 平成20年12月7日(日) 後期日程: 平成21年3月1日(日)

※お問い合わせ: 日本赤十字北海道看護大学看護開発センター認定看護師教育課程事務係

第十回 大学祭開かれる

天下一品大学祭〜Power of Smile〜

六月二十八日(土)、二十九日(日)、第十回大学祭が開催されました。今年のメインテーマは「天下一品大学祭〜Power of Smile〜」です。第十回を記念して、天下一品の天にはすのの意味も込められています。天候にも恵まれ、大勢の市民の方と学生の参加で、大いに盛り上がった大学祭となりました。



大学祭の企画・運営には、一年生と二年生の有志で構成した大学祭実行委員会があたりました。高校時代の学校祭とは異なり、活動の単位はクラス単位ではなく、各サークル、部活動、個人参加など

となります。模擬店を出したり、実行委員会主催による校舎内外での様々な楽しいイベント・後夜祭などを企画しました。また、看護大学ならではの「看護体験」や「心肺蘇生法」、「身体測定」、「赤十字について知る」というコーナーも設けました。校舎の中庭に設置したイベント会場では、様々なゲームやバンドや吹奏楽部による演奏が繰り広げられました。

二日目の夜には、学生による学生のための後夜祭を実施しました。おいしい料理や楽しいゲーム、熱いライブ演奏などがあり、最後には盛大な花火大会で二日間の幕を閉じました。

大学祭は参加することも楽しいですが、創ることも楽しさがあります。ぜひ来年の大学祭には、学生も教職員の皆さんも企画段階から参加して、大学祭を大いに楽しんでください。(大学祭実行委員会書記 一年 細目久)



領域別看護学 実習を振り返って

三年生後期から四年生にかけて行われる領域別看護学実習は、昨年十月から今年八月までの期間に成人(急性期・慢性期)、老人、母性、小児、精神、地域の領域で行われています。実習場所は北見赤十字病院をはじめとし、網走市、小清水町、置戸町など幅広い地域で行われています。これらの実習は、講義で学んだ理論や知識を実践の場で統合するために必要な専門科目であり、基礎看護学実習を基盤にして各看護学実習の目的・目標に沿ってすすめられています。今回は、すべての実習を終了した四年生に実習を振り返った感想を寄せていただきました。



四年生 山田 睦

実習を通して、多くの患者さんとの出会いがありました。それらの患者さんと接することは、座学では学べないたくさんの方の知識をあたえてくれました。また、普段の生活では関わることもない様々な年齢の方との出会いは、今後、看護師として働いていくであろう将来の糧となったと思います。

実習というのは、辛くて大変なことだと思えます。しかしどうせ辛いんだつたら楽しく過ごそうと考えを変えました。そうすると、六クールにわたる実習は毎日楽しく大変充実したものとなりました。物事は、捉え方一つで大きく変わっていきます。折角一年間近く実習に行くのなら、その生活の中で楽しみを見つけないと、又、見つけようと努力しなければ、ただの苦痛なものとなってしまいます。もちろん楽しい事ばかりではなく、大変な事や辛い体験もありましたが、私にとって実習は大変実りのあるものとなり、良い経験となりました。



四年生 藤田大樹

領域別看護学実習を振り返ってみると、各領域において、講義ではえられない体験ができ、全体を通して一言で表すと楽しかったという表現になると思います。しかし、毎日の記録は大変であり、あまり寝られない日々が続く領域もありましたが、振り返りを毎日しっかりと行うことで、翌日の看護計画が明確となり、患者さんへのケアがより良いものへとつながり、そして、患者さんの反応を直に感じることができ、より理解が深まると感じました。また、ケアを行う際には根拠がいかに大切であるかということ、患者さんが病気と向き合う中で、病気を受容できない患者さんもある中で、問題ばかりを見つけて関わるのではなく、患者さんが少しでも現段階でできていることを理解するということも患者さんに関わる上で大切ではないかと実習を通して感じました。そして、受け身にならず積極的に援助を実施して、指導を頂くことにより自分の知識や技術の向上にもつながると感じました。



オーストラリア研修レポート



一年生
坂井千明

私は語学力の向上と異文化体験のため、八月九日から二十四日の十五日間、オーストラリア語学研修プログラムに参加しました。モナッシュ大学付属英語研修センターでさまざまな国の人と一緒に語学研修を受けました。休日は友達と動物園に行き、メルボルンの街を友達と歩いたり、ホストファミリーとドライブをしました。

学生の表彰について

平成二十年度より学生表彰制度を開始することが決定しましたのでその概要をお知らせします。表彰は学業成績と学術研究活動、課外活動、社会活動に分けられます。表彰の対象となるのは学業において優秀な成績を修め、かつ人物的にも優れた個人および学術研究活動、課外活動や社会活動において顕著な業績を挙げて本学の名誉を高めたことを認められる個人又は団体です。学業成績による表彰は学年表彰と卒業表彰に分けられ、学年表

彰は前年度の総合成績の最上位者を、卒業表彰は一から四年次までの全ての成績の上位者三名を対象とします。各表彰者には、表彰状「学長賞」と奨学資金(五万円)(卒業表彰はこれに加えて記念品(五万円以内))を授与します。なお、卒業表彰は卒業時に、その他の表彰は六月に表彰を実施します。詳細は配布しました「日本赤十字北海道看護大学学生表彰制度」規定をご参照ください。

本表彰制度により、いつそうの学習意欲の向上、自己実現や社会貢献に励んでいただきたいと存じます。

私は海外に行くのが初めてで、英語が通じるか不安でいっぱいでしたが、友達やホストファミリーは私にわかりやすい英語で話してくれ、日を追うごとに英語も聞き取れるようになりました。

私にとってメルボルンで過ごした日々は一生忘れられない思い出となりました。この研修で私は大切な友達がたくさんできました。私が楽しく過ごすことができたのは友達のおかげです。これからも人との出会いを大切に、さまざまなことに積極的に挑戦していきたいと思っています。興味のある人は是非参加してみてください。



二年生
山口貴子

今回私は両親の好意によって、オーストラリア研修を体験することが出来ました。

研修内容は三週間ホームステイをし、その家庭から現地の大学へ授業を受けに行くというもの。オーストラリアは英語圏の国ですからこの国で自分を理解してもらうためには相手に自分の意思をはっきりと伝えなければなりません。今回私がお世話になったホームステイ先は、幸運なことに数年前から海外の留学生を何人も受け入れていた家庭で対応されていました。

国際交流のつどい

平成二十年七月二十四日(火)十八時から、本学講堂において「国際交流の集い」が開催され、学生教職員、一般参加者の二百十三名が参加しました。

今回は、フィリピンのスーピック(ピナツポ山麓)にて、無料診療所(助産所)を開設し現在も活動を続けられている、富田江里子さんを講師にお招きしました。富田さんは、医療を受けることがで

オーストラリアでは、馬車に乗ったり歴史ある教会を見るなど様々な体験をしました。

また、ホームステイ最後の夜は、ホストマザーが車でシテイに連れて行ってくれたため、メルボルンの広大かつ幻想的な素晴らしい夜景を楽しむことが出来ました。

今回の研修は、私にとってオーストラリアという国を人々の心が温かく、景色の綺麗な国として深く心に刻む研修となりました。



きなない現地の人々のための活動をされており、「フィリピンの小さな診療所から」改めて考える『家族』『生き方』そして『医療』とは」をテーマに講演されました。

講演では、途上国における貧困層の人々の暮らしと十分な医療を受けることができない現実、そして先進国の企業から援助されることにより引き起こされた新たな問題など、様々な側面からお話し頂きました。また、途上国の人たちが貧しいながらも力強く、幸せに生きている姿勢から、物質的に豊かといえる日本の生活を見直すひとときにもなりました。

尚、本講演後、富田さんの無料診療所への寄付金として、三万九千四百五十二円の支援金が集まりました。

オープンキャンパス開催される



恒例のオープンキャンパスは、本年は七月二十七日(日)と九月二十八日(日)に開催しました。高校三年生を中心に一・二年生や保護者、高校教諭を含めて延べ二二〇名の参加者がありました。オープンキャンパスの主な内容は、大学教育および平成二十一年度入学試験に関するガイダンスと学内の施設見学、在学生や卒業生の体験談で構成しました。本年度は、在学生の体験談は第一回が二年生の近藤麻衣子さんと三年生の澤野裕哉君と横澤愛恵さん、卒業生

平成二十年度 赤十字災害救護訓練に学生が参加

赤十字災害救護訓練が九月十七日から十九日に旭川市神居町サンタプレゼントパークで実施されました。九月十八日の午後からは、実動訓練が本学学生約三十名の参加で行われました。マグニチュード8の地震が発生し、ビルの倒壊、自動車衝突事故という大規模災害を想定したものでした。

当日は朝から青空が広がり、気温二十七度という炎天下にも負けず、負傷者役の学生達は、本物さながらのメーキャップと演技で救護要員を悩ませていました。あらかじめ設定された負傷者の症状や

の体験談については上埜千春助手が担当してくれました。第一回では、ハンドベル部も豊かな調べを奏でてくれました。在学生、卒業生の体験談やハンドベルの生演奏は非常に好評で、アンケート調査では「この学校で学びたいという意欲がとてもしました」、「充実した日々を送れそうなきがしました」などの感想が寄せられたほか、本学の設備の充実ぶりや清潔な美観にも感嘆の声が挙がっていました。

状態を理解し、自分達なりに演出して真剣に演じる姿が印象的でした。訓練終了は、「意識が無い場合でも看護師さんがずっと手を握っていてくれて安心できた。」など、負傷者役を通しての感想がありました。一方で、「緊急時だからかもしれないが、人としてより、物のように扱われた場面があった。」などの素直な感想もありました。参加した学生達はそれぞれ、将来医療職に就く自分達のあり方を見つめることができたようです。

(成人看護学領域准教授

尾山とし子)



平成二十年度看護開発センター 市民講座のご案内

本看護開発センターでは以下の通り市民講座を開催致します。講師の黒田裕子先生は宝塚市立病院副総婦長として勤務していた一九九五年に阪神・淡路大震災を体験し、その後仮設住宅支援のボランティア活動に転身。阪神高齢者・障害者支援ネットワークを立ち上げて災害看護、ボランティア、在宅ケアのあり方など多方面に情報発信を続けており、最近では四川大地震の際も被災地を訪れております。災害が少ないといわれる北見市ですが、災害は忘れたころにやってくることを忘れず、貴重なお話を聴きながら日頃の対策を考える機会にしたいものです。多数の皆様のご参加を期待しております。

平成20年度 看護開発センター市民講座

テーマ
「災害に強い地域づくりを目指して」
～あなたの「いのち」はあなたの手で守りましょう～
■講師/特定非営利活動法人 阪神高齢者・障害者支援ネットワーク 理事 黒田 裕子先生
■日時/平成20年11月29日(土) 午後1時から午後3時まで
■会場/日本赤十字北海道看護大学講堂
■参加費/無料 ■申込期限/平成20年11月21日(金)
■連絡先/日本赤十字北海道看護大学看護開発センター
TEL: 0157-66-3311(内141)
E-Mail: kaihatsu@rchokkaido-cn.ac.jp

教職員人事

【採用】平成二十年六月一日付け 准教授 本間 裕子

校歌の入選作品決定

本学の創立十周年記念事業の一環として募集をしておりました校歌(歌詞)につきましては、全国から二十八作品の応募があり厳正に審議を重ねた結果、次の方が選ばれました。
【最優秀作品】 羽田野正弘
【優秀作品】 渡邊 政之 藤谷 未来
なお、校歌の作曲は、日本童謡協会会長の湯山昭先生にお願いすることになりました。

編集後記

夜寒が身にしむころとなりましたが、皆様にはますますご健勝のことと存じます。今回のトピックは、大学院助産学専攻と認定看護師教育課程の新設です。より魅力溢れる大学を目指す本学の取り組みと躍進ぶりが伝われば幸いです。平成二十年度も残り少なくなりました。四年生の皆様、看護研究演習の完成を心から応援しています。

日本赤十字北海道看護大学内誌
Viva Kango
第23号
発行日/2008年11月10日
編集・発行/広報委員会
〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125
mail to: kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp